

鹿児島の動物48

徳之島の両生類・爬虫類

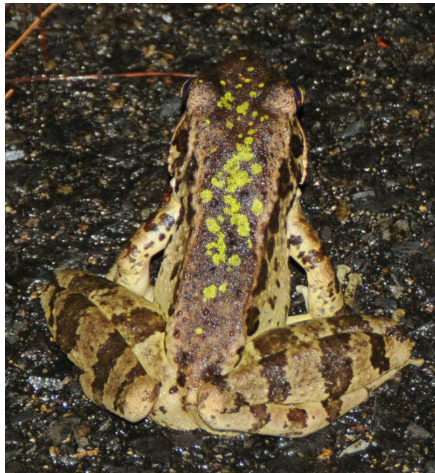
動物担当 池 俊人

今年10月下旬に、徳之島を訪れて動物を観察する機会がありました。夜間、島の北部にある林道で出会った貴重な両生類・爬虫類について、今回は紹介します。

アマミハナサキガエル

奄美大島と徳之島だけにすむ固有種です。2011年に県天然記念物に指定されています。

夜間、林道を車で走ると、数多くのアマミハナサキガエルが路上



アマミハナサキガエル

に出ていました。夕方にかかなりの雨が降ったため、この日は特に多かったようです。体色は茶褐色の個体から鮮やかな緑色の個体まで、個体差が非常に幅広く見られます。

体長3cmほどの幼体もたくさん見かけましたが、実は、いつどこで産卵しているのかなど、徳之島での産卵生態はまだよく分かっていないそうです。



幼体

ヒメハブ

林道わきの湿った側溝に、1匹のヒメハブが潜っていました。主にカエル類を食べるせいか、溪流などの水辺に多い毒ヘビです。



ヒメハブ

ハブ

林道をゆっくりと車で走っている間に、トクノシマトゲネズミが車の前を飛ぶように走り抜ける姿を、3回も目撃しました。ハブは、このようなネズミ類などを食べています。大型で強い毒をもち、攻撃的な性格なので、十分な注意が必要です。



林道を横断していたハブ

オビトカゲモドキ



オビトカゲモドキ

標高もかなり高くなってきた頃によく、林道わきにいたオビトカゲモドキを観察できました。オビトカゲモドキも、2003年に県天然記念物に指定され、保護されています。

以前は沖縄島などにいるクロイワトカゲモドキの亜種とされていましたが、2014年に独立種だと確かめられました。世界中で徳之島だけにしかいない、貴重な動物です。

徳之島は奄美大島とともに、豊かな生物多様性をもつ貴重な自然として、世界自然遺産への登録を目指しています。今回、わずか3時間ほどの間に10頭近くものアマミノクロウサギを目撃するなど、その豊かさを実感することができました。時期が合わずに今回出会うことができなかったイボイモリを観察するためにも、また徳之島を訪れたいものです。